

府中町ふるさと歴史散歩

〔第2回〕

文化財としての考古学の資料 ① (縄文時代の資料)

自分たちが住んでいる町の歴史に関心を持つ人は多い。

府中町は、その名が示すとおり律令時代に国ごとに置かれた地方政庁の国衙、すなわち安芸の国府の所在地と伝えられ、また郡役所や山陽道の安芸駅のあったところでもあったと推定され、古代安芸国の政治・経済・文化の中心地でもあった。

それでは府中町の歴史は、一体どれくらい昔にさかのぼることができるのであろうか。とりわけ、文字史料で書かれた以前の古代(先史時代)の歴史は考古学による発掘調査や採集で得られた埋蔵文化財の資料に頼らざるを得ない。府中町の古代史は、縄文時

代に始まることは確かだ。縄

文時代は今から約一万年前に始まり紀元前300年の弥生時代の開始でもって終わる非常に長い時代である。また縄文時代には海進があつて海面が上昇して広島湾が深く入り込んでいた。府中町歴史民俗資料館と府中変電所を結ぶ県道、府中祇園線あたりが当時の海岸線であつたことは貝塚の存在などから推定できる。広島湾岸地域の例からすれば、広島市内の比治山の南端にある貝塚、佐伯区五日市の円明寺遺跡、安芸区矢野の矢野小学校遺跡などの縄文時代の遺跡があるが、府中町においては現在までのところ縄文時代の遺跡は発見されていない。し

かし、縄文時代の打製石斧

(図1)、城ヶ丘で採集された石鏃(図2)、城ヶ丘にある下岡田遺跡の第二次発掘調査(隔年)の際に、少量の縄文時代後期の土器片(図3)が発見されているので、この時代の遺跡が存在したであろうことは否定できないが、その具体的な様相は、これだけ宅地開発の進んだ状態では期待できそうにない。縄文時代は狩猟・漁労・採集に明け暮れた生活であつたため、縄文人が城ヶ丘の丘陵地あたりにハンティング(狩猟)に来ていたのかも知れない。

府中町文化財保護審議会

会長 横田 禎 昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272



図1 府中中学校収蔵の石斧



図2 城ヶ丘表採の石鏃
(府中町歴史民俗資料館蔵)



図3 下岡田遺跡出土の石鏃
(府中町歴史民俗資料館蔵)

